

2026年 新春ご挨拶 年頭所感



(一社)日本衛生材料工業連合会

会長 天田 泰正
Yasumasa Amada

新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては2026年の新春を健やかにお迎えになられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、本年も引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年は、大阪・関西万博の開幕により、未来への夢と技術の可能性が世界中から注目される年となり、更には日衛連や会員の紙おむつ各社はイベントに参加する機会となりました。一方で、私たちを取り巻く世界的な政治・経済の動きや地政学的な諸問題には今後も見守るべき事象が多く、目が離せない状況となっております。また昨年の夏は全国で40℃越えの地点が続出し、伊勢崎市の41.8℃は観測史上最高気温を更新し、まさに“災害級の猛暑”となり気候変動や環境への意識を一層高めるものとなりました。

このような環境下で2026年の重点テーマとして、当連合会は「環境」と「標準化」を中心とした更なる業界の技術革新に向けた取り組みを進めます。昨年、「環境声明2025」をホームページに掲載し、資源循環や脱炭素社会の実現に向けて5つの工業会が活動に着手し、更に本年は活動を推進してまいります。

また消費者への安心・安全の信頼性確保に欠かせない品質向上に向けた標準化の整備・推進として日本発の公的標準化を重要テーマと位置づけ、製品の品質向上、日本企業の競争力向上に繋げると共に、業界全体として信頼される製品づくりに邁進してまいります。

当連合会の基本方針である「品質の維持・向上」、「安定供給」、「環境対応」、「災害支援」等を関係省庁や関係団体様との連携、ご指導を頂く事で今年も全力で取り組む所存です。

2026年は「丙午」の年です。「丙」は陽の火、「午」は勢いを象徴し、両者が重なる本年は、情熱と行動力が求められる年とも言われています。私たちもこの力強い干支にあやかり、挑戦を恐れず、更なる飛躍を目指してまいります。

皆様におかれましても、2026年が希望に満ちた素晴らしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年も(一社)日本衛生材料工業連合会への変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

2026年 新春ご挨拶 年頭所感



(一財)日本衛生材料工業連合会
全国衛生材料工業会

会長 國枝 靖弘
Michitaka Sawada

新年あけましておめでとうございます。

平素より当業界の発展に多大なるご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年、天田会長からバトンを引継ぎました。これまで歴代の会長が築いてこられた揺るぎない基盤を継承するとともに、新たな時代にふさわしい挑戦を進めていく所存です。

私たちの業界を取り巻く環境は、コロナ後のライフスタイルの変化、国際的な衛生意識の高まり、トランプ関税や世界的な紛争の影響による為替の変動、原材料や人件費の高騰など多くの課題を抱えまさに大きな転換期を迎えております。

しかし、こうした変化は同時に、新たな価値を創造する絶好の機会でもあります。本年は天田会長より引き継ぎました

①安全・安心を支える衛生材料の価値のさらなる向上

② 衛生材料の枠組み拡大

③ 公取協活動を通じたコンプライアンス強化

④日衛連の『環境宣言』に沿った当工業会としての目標とアクションプラン策定

の4項目に加えて、⑤として昨今の人手不足と賃金高騰に対応する為、外国人の雇用を容易にする為の施作を日衛連の協力を得ながら進めて業界全体の連携強化による持続的な発展を計りたいと考えます。

これらを重点項目として掲げ、皆さまと共に力強く歩みを進めてまいります。

衛生材料は、人々の暮らしに“なくてはならないもの”です。

その社会的使命を胸に、信頼される業界であり続けるため、私自身も誠心誠意努力してまいります。

結びに、本年が皆さまにとりまして健やかで実り多い一年となりますよう、心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

以上

2026年 新春ご挨拶 年頭所感



(一社)日本衛生材料工業連合会
全国紙製衛生材料工業会

会長 森 信次
Shinji Mori

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、全国紙製衛生材料工業会の活動に対しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本年は、丙午（ひのえうま）の年を迎えます。この丙午は、十干十二支の中でも特に「火」のエネルギーと「馬」の勢いが合わさる組み合わせであり、過去の迷信とは異なり、本来は「長年の努力が大きな成果となり、飛躍的な発展を遂げる年」とされています。私たち紙製衛生材料工業会にとっても、社会的使命を再認識し、業界全体が一丸となって新たな課題に果敢に取り組み、力強く成長へと向かう一年となるよう、決意を新たにしております。

さて、昨年、我々の社会的使命である衛生材料の安定供給体制の強化を具現化する一年となりました。一昨年の災害対応の経験を教訓とし、政府の推進するプッシュ型支援への恒常的な対応力を高めるための仕組みづくりを進め、平時からの備蓄・供給ネットワークの強靱化に注力して参りました。2026年は、この実績をさらに発展させ、全会員企業におけるBCP（事業継続計画）を高度化し、いつ、いかなる事態が発生しても、生活に不可欠な衛生用品を滞りなく供給できる、より確実な体制を確立して参ります。

また、持続可能な社会の実現に向けた環境問題への取り組みは、待ったなしの重要課題です。昨年、検討に着手した「日衛連環境協調声明の改定」と、それに基づく当工業会のアクションプランが、本年はいよいよ具体的な実行フェーズへ移行いたします。紙おむつにおけるプラスチック使用量削減目標の達成、製品ライフサイクル全体を通じたリサイクル技術の開発・導入、そして廃棄量の将来予測に基づく自治体との連携強化を、業界の最優先事項として推し進めます。

さらに、グローバルな課題解決への貢献も継続いたします。一昨年より継続しているEDANA（欧州不織布協会）、中国造紙協会との国際意見交換会をより深化させ、温室効果ガス排出量の算出方法の標準化や、地球規模でのリサイクル問題解決に向けた技術と知見の共有を加速させます。日本発の取り組みが、世界の衛生材料業界の発展と持続可能性を牽引できるよう、積極的に連携を図ってまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、健康で、そして大きな実りをもたらす飛躍の一年となりますよう、心より祈念申し上げますとともに、変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

以上

2026年 新春ご挨拶 年頭所感



全国救急絆創膏工業会

会長 高津 敏明
Toshiaki Takatsu

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2026年の年頭にあたり、旧年中賜りましたご高配に深く御礼申し上げます。

2025年は、国際情勢の緊張や経済の変動、さらには気候変動に伴う自然災害のリスクが引き続き高い年となりました。このような国内外の不確実性が続く厳しい環境下において、会員企業各社が製品の安定供給と品質の維持に努められましたこと、心より感謝申し上げます。

特に、リスク管理とサプライチェーンの強靭化は、喫緊の課題として強く認識されました。皆様のご支援とご尽力により、当工業会は社会への貢献のために必要な製品を途切れることなく提供し、国民の皆様の安心を支える役割を果たし続けることができました。

2026年は「丙午（ひのえうま）」の年にあたります。丙午は、大きな変革と成長の機運が高まる年とされ、新たな技術やイノベーションが社会を一気に進展させる可能性を秘めています。

AI・デジタル化・グリーン化といった不可逆的な社会変革を好機と捉え、国民の保健衛生向上という使命を果たすため、以下の課題に重点的に取り組みます。具体的には、法規制に対応した製品の品質と安全性を追求するとともに、脱炭素社会の実現に向けたサステナビリティへの貢献を推進します。また、サプライチェーンの強靭化を進め、社会に貢献してまいります。

本年も、当工業会への変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様にとりまして、この変革の年に実り多き成果が得られますとともに、ご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

以上

2026年 新春ご挨拶 年頭所感



(一社)日本衛生材料工業連合会
日本清浄紙綿類工業会

会長 大崎 将男
Masao Osaki

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素より当工業会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、世界情勢の不安定化や原材料価格の高騰、円安の継続に加え、国内の人手不足が深刻化し、輸送コストの急騰や納期遅延が頻発するなど、極めて厳しい事業環境となりました。

会員各社におかれましては、調達先の複線化や在庫調整の強化、製造・物流体制の見直しなど、供給責任を果たすための不断の取り組みを余儀なくされた一年であったと拝察いたします。こうした困難な状況にもかかわらず、皆さまの日々のご努力により、医療衛生材料の安定供給体制が確保されましたことに、改めて深く敬意を表します。

さて、本年は、除菌ウエットワイパー市場における「安心できる性能表示」による健全な成長を目的として、審査対象を非会員にも拡大した【JIS S3303 適合審査】を開始いたします。

中立性と公正性を担保した審査制度の本格運用を通じ、性能表示に対する社会的信頼の確立を図り、消費者が製品を正しく選択できる市場環境の整備に取り組んでまいります。

さらに、安心・安全な製品の提供に向けた標準化の推進に努めるとともに、抗ウイルス性能評価基準の開発、流せる表示の適合性確認の強化、試買調査の定期実施、環境表示の普及促進など、各関係機関との緊密な連携のもと、実効性の高い施策を着実に進めてまいります。社会に信頼され続ける工業界の姿を体現すべく、今年もたゆまぬ努力で精進してまいります。

皆さまのご理解とご協力に心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員企業の皆さまのご健勝とさらなるご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

以上

2026年 新春ご挨拶 年頭所感



(一社)日本衛生材料工業連合会
全国マスク工業会

会長 横井 昭
Akira Yokoi

平素は、全国マスク工業会の活動に対しまして格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

マスク市況は、新型コロナウイルス(Covid-19)5類移行の2023年以後、消費需要・備蓄需要共に非常に落ち着いた環境にあります。昨年の暑く長い夏は地域差があるものの6か月程度続き、短い秋が終わらないうちにインフルエンザの流行期に入ったのですが、年始には収束に向かっていると思われます。

昨年の年頭所見でも触れましたが、全国マスク工業会は21年目のスタートということになります。発足時は、マスクの適正な表示と啓発を目的として2つの専門委員会を設立しています。この趣旨は今も変わらず継続しているのですが、2つの大きな感染症や震災などを経験し、需要の急変や用途の多様化にも対応するため、修正や見直しが必要な部分も出てきました。

マスクにはJIS規格がありますが、雑貨品であるが故に柔軟な対応も求められます。全国マスク工業会の自主基準を通して適正な表示と情報発信をしていくことが、日本のマスク文化を支える大切なものであると考えています。また、同時に環境問題への取り組みも発信していきます。

マスクは需要の増減が大きいのは想定内として、ひっ迫した状況にない時にやるべきことをやっておく一年としたいと考えております。

最後になりましたが、本年も皆様にとりまして良い年でありますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

以上